



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

ルターの宗教改革から500年の今年、キリスト教界では様々な記念行事が行われている。カトリック教会と日本福音ルーテル教会とは、浦上天主堂で、共同で礼拝を持つという。典礼や信仰、神学の違いを超えて、聖公会を含めた3教会の間では、長年、教会一のための協議が続けられてきた。カトリック教会にプロテスト(抗議?)することによって生まれてきたプロテスタント教会だが、今こそ「対決から交わりへ」(一致に関するルーテルローマ・カトリック委員会の報告書)という彼らの努力と姿勢に学ばなければならぬ。とかく、一人一派かと思うほど、教派の数があつち、それぞれが他者を否定することによって、自らの正しさだけを強調しやすい私たちプロテスタント教会において、「われわれ、ルター派のキリスト者もカトリックのキリスト者も、相手ではなく、まずもって自らに批判的な眼差しを向けることによって」(一致に関するルーテルローマ・カトリック委員会の報告書)という言葉に耳を傾ける必要があるのではないだろうか。

れならば、どこかの政党と同じになつてしまふ。それぞれの教派、教団には、その設立の時に来ゆずることのできない信仰や礼拝形式、聖礼典があるのだから。しかしながら、もし伝統を護る事だけに汲々とし、頑なに自己弁護するものであるとするならば、「私が求めるのは憐れみであつて、いけにえではない」との律法の完成者として来られた主イエスに倣うものである

瞑想

わたしの住まいは彼らとともにあり、
わたしは彼らの神となり、
彼らはわたしの民となる。

エゼキエル37:27

主幹牧師 榎本 恵

てみた。預言者エゼキエルは、イスラエルの民が国を失ひ、バビロン捕囚期に神の言葉を語つた。「主の言葉が私に臨んだ」(エゼキエル37:19)という独特の表現をもつて語り始められる彼の預言は、イスラエルの再興を語る。ダビデ、ソロモン王のち、二つの国に分裂したイスラエルは、今や北イスラエル、そして南ユダの両国とも消滅してしまふ。しかもアッシリア、バ

れることはない。」(エゼキエル37:22)と神の言葉を預言するのだ。王も国も失ひ、ただ生きる屍のようになっていた民に向かい、必ず骨に肉がつくようによみがえると、そして新しいひとつの国がつくられると宣言し、「ひとりりの牧者が、彼らすべての牧者となる。」(エゼキエル37:24)と預言するのだ。ひとつの国、ひとりりの王、そして全てのものの牧者の出現。それが指し示しているものが、ただこの世的意味の国家でもなければ、指導者でもないことは言うまでもない。主イエスを救い主と仰ぎ、待ち望む私たちにとつて、エゼキエルの預言はいまも変わらぬ真実なものであり、捕囚の民がそうであつたように、その約束の実現する日待ち望み続けなければならぬ。「わたしの住まいは彼らとともにあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」(エゼキエル37:27)この言葉を信じ、今この時を歩んでいかなければならない。なぜなら、これが私たちにも与えられた主の約束の言葉だから。友よ、ルターの宗教改革を記念するこの年に、私たちもひとつの主の住み給う家となり、主を待ち望むものとなるうよ。

榎本保郎先生との出会いに 感謝を込めて

岩波 久一

9月25日〜27日に行われた第14回国際正義平和アシユラムと榎本保郎先生が召されて40周年記念アシユラムに参加できたことは、本当に大きな喜びでした。



早天祈祷会
Sマヘンドラ師(スタンレー・ジョーンス師研究)と下村展子姉(通訳・奉仕)

の思いを込めて、このアシユラムに参加しました。私は、榎本保郎先生から受けた恵みを思い起こし、その大きさにただただ感謝の気持ちで神に祈りたいと思いました。

私が榎本保郎先生と初めて出会ったのは、先生が、第6回今治アシユラムを開催された1972年のことでした。その時以来を数えると45年が経たことになりました。

生前の榎本保郎先生との交わりは、約5年間の短い期間でした。先生との触れ合いは、色々な機会を通してお交わりを頂き、先生の信仰に触れ、励まされたものでした。私



岩波師(後列右)のファミリー

は、十字架の贖罪の恩寵と復活の命に生かされ、その毎日には、喜びと感謝に溢れた日々へと変えられて行きました。牧師としての人生は、苦勞も苦悩も絶えず伴いませぬ。しかし、それ以上に、神に愛され、御霊の満たしと導きとに励まされ、主が何時も共に傍らにいて下さる信頼と信仰を持つて歩むことは、あらゆる問題を乗り越えて行くことを可能として下さいました。

よって、アシユラムの良さを知り、アシユラムの生活に導かれまし。朝毎に御言葉への静聴の時を持ち、神の深い愛に満たされ、牧会と伝道に命を惜しむことなく働くことが出来ました。それを思うと感謝のほかありません。昨年の9月、牧会を引退するまで、53年間、牧師として主に仕えてきました。御言葉に生かされ、聴従を心掛ける信仰の歩み

シユラムを真実に体得

するならば、日本の教会の体質は変えられませぬ。この言葉は真実であると言えます。榎本保郎先生が召されて40周年記念を覚える時、その功績を感謝し、心からの祈りを捧げたいと思いました。(飯能パプテスト教会)



- ご献金者
敬称略
- 9月分
明石山 良雄
金山 敏博
ミニアシユラム
茂子 造り
鈴木 哲夫
中本 勉
品田 隆
辻 優子
野波 朝子
沖田 和恵
沖田 貴勝
引原 義明
引原 美子
榎本 千歳
松野 京子
越前 孝昭
上香 孝子
佐川 昭久
山田 美子
吉田 久子
正岡 久子
常任委員
青木 博
森山 後輝
吉田 高明
軽井沢 アシユラム
博光代
川口 称子
川口 新りの家
山田 新野
アシユラム
和子
榎本 てる子
榎本 宮まり
ちいろば
教師記念
礼拝
チャペル
福岡書教室
村上方
仁宣
横山 和聡
土屋 涼子
林 均香
西山 由香
ケンセー
聖書教室
榎本 康光
榎本 康太郎
榎本 久太郎
榎本 俊三
榎本 直浩
榎本 向志
榎本 明子
榎本 青年
アシユラム
米田 康子

第5回日光オリーブの里 アシユラムに参加して感じたこと

土屋 聡

信仰の友達から「とても良い」と聞いていたアシユラムに、数年越しの念願が叶って参加することができ、幸せでした。アシユラムの体験を通して次のようなことを感じました。



中央が筆者

「開心の時」という短い時間の中で、心を開いて自分の弱さや悩みを伝え合う「正

・同じファミリーとなった初対面の者同士が心を開き、本音に近い語り合いができていた。驚きでした。「開心の時」という短い時間の中で、心を開いて自分の弱さや悩みを伝え合う「正

「祈るときには自分の奥まった部屋にはいり

静聴の時には二つの

・同じファミリーとなった初対面の者同士が心を開き、本音に近い語り合いができていた。驚きでした。「開心の時」という短い時間の中で、心を開いて自分の弱さや悩みを伝え合う「正

これから1年間続くといいことです。翌日は、そのスタートでした。顔と名前がわかるファミリーの課題を毎日、顔と気持ちを思い浮かべながら祈るといふ具体的な課題を与えて頂き、1年間、祈り合いを続けていきたいと思

「祈るときには自分の奥まった部屋にはいり

静聴の時には二つの

・時間も気持ちも人間関係も、安心してゆったりと過ごすことができました。何よりも解放した心を神さまの方に向けて聖書を読み、そして祈り、柔らかなった心に示される御言葉からの響きを味わうという豊かで幸せな時間を過ごすことができました。

また、自分の「心の痛みや不安」を、同じファミリーの仲間から執り成しの祈り合う関係が、ファミリーの中で

毎朝、主を呼び求めています。神さまとお話したいからです。静かにして「奥の部屋に入り、うしろの戸を閉めて神さまの御声を待ちます」

写真と共に実行委員会(新垣師)から書面が届きました。創世記で「人は神の息を吹き込まれて生きた者になった」とあります。祈りとは神の息を吸い、また神に息を合わせることでした。とありました。本当にそうでした。神さまの命の息を吸わなければ生きていけませんよね。最近の私の息苦しさがわかりました。

直な出会い」がとても大切な時だったように感じています。隔てのない関係の中で、話は批判されることなく受け止めてもらえるので、安心して話すことができました。

第七回 岩松アシユラムに参加して

佐賀 昭子

「すべて主を呼ぶ者、誠をもって主を呼ぶ者に、主は近いのです。」(詩編145篇18節)

心はスポンジのように生けるみことばの水を吸いとりました。

歌子 啓子
大阪聖書教室 カフェちいろば
聖書入門講座 悠子 淑子
大山 潤子 朋代 光子
西尾 古田 安伸 萌子
安伸 湯野 萬里子
脇野 横引 すみえ 静子
小倉 鹿野 公一 博子
キリスト教会 啓子
本庄 東 典子
チャイム・コンソート
(池田) チャイムの会) 広子
築山 崇山 大浜 ト教会
伊達 伊達 平和 73口
¥747,354

根本 保部 敏節
召天 40周年記念
大隅 中道 加藤 加々美
上柿 薬科 野村 榎本
榎本 榎本 榎本 熊野
西尾 安伸 脇野 山田
15口
¥261,000

ヨセフ基金 加々美 要
ちいろば アツちゃん・シユラム君
吉田すみみ 常任運営委員会
センター 聖書教室 5口
¥18,350

合計 93口
¥1,026,704
感謝いたします



聖句をいただきました。 「神の御言を、すなおに受け入れなさい。」(ヤコブ1章21節) 「どうか父が、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように」(エペソ3章16節) どちらも今の私に必要な大切な御言葉となりました。

一同でこの地を訪れました。今治で「岩松に教会を」との中川義雄兄の立証をお聞きしたのです。

昨年、再びこの地に導かれ、青空をバックにすつくと建つ大きな会堂(祈祷院)を見た時、「あっ・・・！」と大きな感動を覚え、心から神さまの御名を崇めました。そして今アシュラムに用いられている事、本当にうれしいです。

今回は、姫路・赤穂から、徳島から、そして県内からと、計19名の参加があり、奉仕者は新垣師、由子先生でした。

次回もぜひ神さまの呼びかけに応じる者でありたいと願って、第七回アシュラムの恵みを感じたいと思います。(日本基督教団今治教会)



クリスマス献金のお願い



わたしは荒野で叫ぶ声である。

ヨハネ1:23

今年も、主の御降誕を祝うこの季節がやってきました。アシュラムセンターも、この一年間の神様からいただいた恵みの一つ一つを思い起こしながら、また新しく始まる年を待望しています。今年には特に、榎本保郎牧師召天40周年の記念の年であり、9月にはその記念集会を開催し、また記念出版として「聴くこと祈ること」がいのちのこことば社より出すことができました。

この本は、過去のアシュラム誌に書かれたいろいろ牧師の巻頭言がおさめられています。今治教会を辞するとき、アシュラムセンターを開設するとき、また、最後の遺言を思わせるような北米ブラジル伝道へ出かけるときなど、貴重な言葉の数々に出会うことができます。

中でも、アシュラムセンター開設後、その決意を述べるところは、今の私たちにとっても大変重要なものだと思っています。

「それがどんなに不都合であろうとも、「声」に終始していきたく願っている。アシュラム運動が広がっていくことではなく、キリスト信徒一人一人の生活の中に、日々新しく主の養いを受ける密室が守られていくことを願いつつ、呼ばれる「声」としての使命に徹したい。」(「聴くこと祈ること・荒野で呼ばれる者の声より」) 私たちのアシュラム運動は「声」であります。その時がどんな暗黒の時代の中であっても、またその場所が不安と恐れの世界であったとしても、私たちは叫び続ける声でありたいのです。

どうか、この声を上げ続ける者のために、皆様の尊い献金をおさげください。アシュラム誌、そしてインターネットのホームページ、全国各地で行われる聖書教室、主催アシュラム、また海外宣教の業など。私たちアシュラムセンターは、今日も声を上げ続けて行きます。どうか皆様の祈りとお支えをお願いいたします。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

アシュラム修道場生活記

その10

「関わる」

伊達 平和



修道場の男子用トイレはトイレトペーパーが無いことが多い。いや、正確に言うと「お尻を拭くのに絶妙に足りない」程度のトイレトペーパーしか残っていないことがよくある。日々静聴の訓練を受けている甲斐あって、トイレトペーパーからこんな声がかきこえてくる。「ほら、こんだけ、ちゃんと残ってるから、別に新しいトイレトペーパー持ってこなくていいよね」。不思議なことに神からの声はいまだに聞こえないが、紙からの声は聞こえる（もちろんこの声は幻聴である可能性が高い）。例によって寛容でない筆者は「トイレトペーパーが無くなりそうになったら必ず2個補充しておくように」とアナウンスしたのだった。

共同生活というものは傍からみていると面白いかもしれないが、トイレトペーパー一つとっても面倒である。みなそれぞれ育ちも経験も、個性も異なるから当然だ。この面倒に対処するには2つやり方がある。「我慢する」と「関わる」こと。そのどちらかを選ばなくてはならない。前者は我慢できるほど些細なことであればよいが、表面上は波風発っていないように見えても、どうやら筆者の不機嫌オーラはコントロールできていないらしい。後者は、余計な軋轢を生まないように言葉に気をを使う必要があるし、思いが通じるという保証はない。運が悪ければそのまま喧嘩となる。筆者はほかの住民のためにトイレトペーパー補充係を努める気は全くなかったのが、今回は「関わる」ことを選んだ。

「かかわらなければ」という歌詞で始まる歌がある。塔和子*の詩に沢知恵**が曲をつけた「胸の泉に」という歌だ。人は関わりあうことで愛や親しみを感じ、そしてさびしい思いもする。関わることで得る幸せもあれば、不幸も経験する。「ああ／何億の人がいようと／かかわらなければ路傍の人／私の胸の泉に／枯れ葉いちまいも／落としてはくれない」（塔和子「胸の泉に」より）。この修道場生活でも、関わることで生まれる嫌なことを恐れているのは、胸の泉はいつまでも寂しいままだが、関わることしか得られない豊かさもある。そんなことに気付かされる。また本来の意味とは若干異なるが「関わらなければならぬ」という決意を後押ししてくれるような気もしている。正直に言うと人と関わることは苦手なのだが、神様に「少しの勇気を下さい」と祈り求めている。

その後、トイレトペーパーが残り3分の1になった。追加のトイレトペーパーはまだ用意されていない。さて、ここから先はいったいどうなるか、トイレトペーパーを節約しつつ静観していたのだが一しばらくすると無事に2個予備が置かれていた。これからは慌ててトイレに駆け込んだとしても、心穏やかに用をたすことが出来そうだ。

* 塔 和子：

ハンセン病を患い、その経験を背景として多くの詩を発表。多くの人々を力づけた。

** 沢 知恵：

シンガーソングライター。国際「正義・平和」アシュラムのコンサートで歌っていただいた。筆者も心を揺さぶられたファンの一人である。

あとがき

アシュラムセンターの今年度もこの11月で終わる。2017年は、センターにとつてひとつの節目となる年であった。榎本保郎牧師召天40年という記念すべきこの年を迎えることが出来たことを心から主に感謝する。「あなたの神、主が導かれた40年の荒れ野の旅を思い起こしなさい。」（申8:2）「この40年の間、あなたの着物は古びず、足が腫れることもなかった。」（申8:4）私たちは、このモーセの言葉をもう一度かみしめ、これからの新しい年に向けて歩みだそう。（恵）



耕す和子母

12月の聖書教室など

1(金)	阪神ミニアシュラム(主恩教会 PM1:00)
2(土)	広野祈りの家(兵庫三木市志染 猪瀬和子姉宅 PM1:30)
7(木)	合同平和祈禱会・キャロル・サックさんハーブコンサート (アシュラムセンター PM5:00)
9(土)	合同聖書教室・クリスマス愛餐会・ミニフリーマーケット
11(月)	福岡聖書教室(博多クリオコートホテル PM1:30)
14(木)	常任運営委員会(アシュラムセンター)
15(金)	センター聖書教室(アシュラムセンター AM11:00)
17(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝・愛餐会(PM5:00)
19(火)	大阪聖書教室(大阪クリスチャンセンター AM10:30)
20(水)	カフェちいろば聖書入門講座(京都・伏見区深草 PM1:30)
25(月)	静岡聖書教室(旧・英和女学院宣教師館 PM2:00)
26(火)	東京聖書教室(御茶ノ水クリスチャンセンター4F AM10:30)
26(火)	桜美林リトリートアシュラム(桜美林大学荊冠 PM2:30)

1月以降のアシュラム予定

1/25(木)~27(土)	第42回 年頭アシュラム(関西セミナーハウス) 奉仕者 榎本恵師・唄野隆師・絢子姉 ★詳細は、案内チラシをご覧ください	0748-33-4030 アシュラムセンター
2/3(土)	呉アシュラム 奉仕者 榎本恵師	0823-21-8571 日本アライアンス呉教会
2/8(木)~9(土)	ブラジル パラアシュラム 奉仕者 榎本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
2/17(土)	ニューヨーク日米合同教会アシュラム 奉仕者 榎本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

ご案内

第34回 台湾アシュラム

第15回 国際正義平和アシュラムin台湾

2018年2月20日(火)~25日(日) 全日程
アシュラム

…21~23日 平和コンサート

ツアー

…23~24日 花蓮懸・先住民族教会訪問

★会費 約35,000円(アシュラム、ツアー代)

——— 詳細・お問い合わせ お申し込み ———
加々美 要 師 電話 048・789・1325



第14回 国際正義平和アシュラム
族教会聖歌隊の讃美

みことば

日本キリスト教団
西川口教会牧師(埼玉)

金田 佐久子

「主イエスに聴く
マタイ福音書第6章より」

(8) 11節 今日の糧を

「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」。すでに主イエスは、「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」(マタイ6:8)と語られました。さらにマタイによる福音書第6章31~32節では、「だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。・・・あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである」とお語りになっておられます。主イエスが禁じておられるのは、自分たちの生活に関して思い悩むことです。主イエスは「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」と祈るよう命じられました。この祈りは、天の父が与えてくださらなければ今日の必要な糧を得ることはできないという、神の憐れみに依り頼む祈りです。そう書きながらも問われます。食事の度に祈りますが、この祈りが聞かれたからこそ、この食事があるとわたしは真剣に信じているのでしょうか。天の父がわたしのために今日の糧をお恵みくださったと本当に信じているのでしょうか。どこかに、自分の力で自分の食べ物を得たのだという傲慢さがあるのではないのでしょうか。今日、世界を見れば、日毎の糧が得られない数多くの貧しい人々がいます。命が脅かされている人々がいます。「わたしたちに」と祈るとき、どこまでの広がりを見て、祈っているのでしょうか。主よ、不信仰の罪を告白します。心から文字通りに祈る者としてください。

☆12月7日(木) 第7回 合同平和祈禱会・愛餐会
pm 5:00 ~ アシュラムセンターちいろばチャペル
キャロル・サックさん「平和と癒し」のハーブコンサート

☆12月9日(土)
am 11:00 ~ 合同聖書教室…ちいろばチャペル
クリスマス愛餐会コンサート…アンナ祈りの家
(カフェちいろば大山謙一シェフの手料理!)
pm 2:00 ~ 初ミニフリーマーケット(修道場生企画)…Wハウス
お問い合わせは、アシュラムセンターへ。



榎本保郎牧師 新約 一日一章
FEBC ラジオ・インターネットで配信中!

